

にのみや学園通信

R8.3.13
第 32 号

今年度の「にのみや学園 小中交流会」が3回実施されました。

にのみや学園のプロジェクトとして年3回行われた「小中交流会」。このプロジェクトは、小学校高学年の子どもたちが学区の中学校の授業を参観したり、部活動を見学・体験したりすることで、安心感をもって滑らかに中学校に進学することをねらいとしています。



で懸命に練習に励んだり、作業に集中して取り組んだりする中学生の姿を見学しました。

参加した児童たちからは、

「中学生は落ち着いて授業を受けていてすごい。」「数学や英語など、小6から一気にレベルが上がっていると思った。」「〇〇部に入ろうと思っていたけれど、他の部活もいいなと思った。」「他の学年なのに仲がいいんだなと思った。」といった感想を聞くことができました。児童たちは、今回の1回目の交流会を通して、まずは、授業や部活動における中学生の様子を知ることができたようです。



イメージを少なからず持つことができたようです。



そして3回目(2月20日)は、部活動の体験でした。はじめは緊張した面持ちで体験に臨んでいた小学生ですが、中学生に、ていねいに教えてもらううちに、時おり笑顔を見せ、楽しそうに取り組む姿を見せるようになりました。

参加した185名の児童のうち 97.8%が「楽しかった」と評価し、92.9%が「中学校が楽しみになった」と回答するなど、非常に高い満足度を示す結果となりました。自由記述でも「先輩が優しくかった。」「安心した。」「部活に入りたくなった。」という声が多数を占め、中学校への不安解消・進学意欲の向上に大きく貢献したことがうかがえました。

今年度の3回の交流会を通して、にのみや学園の小学校6年生が中学校への希望や期待をさらにふくらませ、4月6日の入学式を迎えられることを祈念しています。

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



今年度の校内研究授業 その1(二宮小学校の取り組み)

※今年度もすべての学校で研究授業が行われました。どの学校でも、各校の教育目標そしてにのみや学園の教育目標である「認め合い、高め合う、二宮の子」の実現を目指した授業が展開されていました。今回は二宮小学校の実践を紹介いたします。

二宮小学校では、今年度、横浜国立大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻の青木弘教授を講師に迎え、「自ら進んで学び続ける子どもを目指して ～どの子ども「分かった、できた、楽しい」を実感する授業づくり～」をテーマに1年間研究を行ってきました。学年・ブロックで共同で研究を行うことにより、教科や単元について話し合う機会も多くあり、教職員の教材研究の底上げにつながりました。

今年度は、1～6年は国語科を中心に、特別支援学級は自立活動や算数・社会など様々な教科で、専科は算数での実践が行われました。研究授業は、特別支援学級、低・中・高学年の4回公開しました。9月には、特別支援学級で自立活動3学級、理科・算数・社会・国語・総合的な学習の時間でそれぞれ5学級が公開しました。



特別支援学級 総合的な学習の時間

全体研究会では、「見通し」「環境設定」「教材」「声かけや接し方」という観点で、授業を振り返り、自分の学級にも使える技やアイデアを見つけていきました。

10月には、低学年ブロック2年生で、国語「お手紙」の研究授業を行いました。「叙述に沿った読み取り」や「音読」の大切さとともに、自由な発言の様子から学級の温かさなどの重要性が意見として出されました。11月には、中学年ブロック3年生で、国語「おすすめの1さつを決めよう」の研究授業を行いました。手立てとして提示された「学びのプラン」や「思考ツール」について、新しい視点として取り入れていきたいという意見や、教員の温かい声かけのよさが出されました。

最後2月には、高学年ブロック6年生で、国語「海の命」の研究授業を行いました。中学年ブロックで出された「学びのプラン」を実践し、「自由進度学習」、考えを形成するための「ヒントカード」など、新たな挑戦も全体研究会での話題となりました。



2年生「お手紙」



3年生「おすすめの1さつを決めよう」



6年生「海の命」

今年度、様々な手立てを各学年が実践したことで、来年度にもつなげていきたいものを今後話し合ってまとめていきたいと考えています。

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



今年度の校内研究授業 その2（一色小学校の取り組み）

※今年度もすべての学校で研究授業が行われました。どの学校でも、各校の教育目標そしてにのみや学園の教育目標である「認め合い、高め合う、二宮の子」の実現を目指した授業が展開されていました。今回は一色小学校の実践を紹介いたします。

令和7年度一色小学校の学校研究主題は「見方・考え方を働かせ、認め合い・高め合う一色の子を育む授業づくり～逆算して考え、発問と資料提示で作る授業デザイン～」と設定しました。社会科・生活科を中心に「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を重視し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりを行いました。主題に迫るために重視した点は、「逆算して考える」「発問の工夫」「資料提示の工夫」の3点です。授業をデザインする際に、これらを意識して事前検討会を行い、研究を進めました。

★「逆算して考える」



（ゴール「ねらい」を決める）



（道筋「計画」を考える）



（どんなアナウンス「発問」・看板「資料」を立てるか考える）

★「発問の工夫」



思考を揺さぶる発問

比較・関連付けを促す発問

多角的な視点を促す発問

理由や根拠を問う発問

発展的な問いへと繋がる発問

★「資料提示の工夫」



思考を促す資料

多角的な視点を提供する資料

子どもの生活や実態に即した資料

比較検討がしやすい資料

思考ツール

11月20日に行った6年生の社会科「全国統一への動き」の授業を受け、3年生「昔の道具とくらし」の授業公開を行いました。授業を考える際には、教職員全員で事前検討会を行い、学習のねらいや魅力的な発問などを考えました。教職員が授業者のねらいや意図を理解したうえで参観することができ、授業後の研究協議がより有意義なものになりました。また筑波大学附属小学校由井蘭健先生に助言もいただき、発問や資料提示の質を高めることができました。

3年生の授業では、洗濯板での洗濯を実際に体験することを単元の導入としました。洗濯の大変さの実感するとともに、洗濯機の便利さにも気づいていました。家庭での様子と学習したことを関連付け、「洗濯板から洗濯機に変わったから、洗濯をする時間が短くなって、他のことをする時間が増えていると思う。」など道具が進化するとともに、暮らしの様子が変化していることに気づくなど、学びを深めていました。

児童は日常生活に関連した発問や体験を通して学習課題を自分事として捉えることができました。その結果、「学びたい・知りたい」という気持ちが高まり、主体的・対話的な場面が増え、深い学びに迫ることができました。このような児童の姿が教職員の授業づくりの熱をさらに高めています。次年度も「チーム一色^{いっしき}」という言葉とともに、教職員でより良い授業づくりを目指し、研究に取り組んでいきたいと思ひます。

3 年生



感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



今年度の校内研究授業 その3 (山西小学校の取り組み)

※今年度もすべての学校で研究授業が行われました。どの学校でも、各校の教育目標そしてにのみや学園の教育目標である「認め合い、高め合う、二宮の子」の実現を目指した授業が展開されていました。今回は山西小学校の実践を紹介いたします。

今年度は、昨年度の研究の反省から、研究テーマを「『見方・考え方』を働かせる『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善～誰一人取り残されない学級集団、学習集団をベースに～」とし、「見方・考え方を働かせること」を通して、深い学びに到達することを目指す授業のあり方を研究しました。

また、今年度は従来の学年・ブロックの研究組織から、国語・算数・道徳の各教科を選んで所属する研究組織へと刷新を図り、教職員の主体性と創意工夫を最大限生かせるようにしました。

<研究授業① 2年生 道徳 星崎教諭>

「わすれられないえがお」(A 善悪の判断)

多面的・多角的に考えたり、自分事として考えたりできるような発問・問い返しを工夫することで、子ども自身の価値観を更新する学びに到達することをねらいました。単に心情を聞く発問ではなく、「すぐに謝るか」「悩んでから謝るか」を子ども自身に選択させたり、子どもの発言に問い返したりすることによって、多面的・多角的な思考を促進することができました。

<研究授業② 1年生 国語 伊藤教諭>

「くじらぐも」

言葉に着目させるための教師の指導の工夫や、単元を通じた言語活動によって、豊かに想像を膨らませる力の育成をねらいました。言語活動「映画作り」は、主体的な子どもの姿を引き出していました。また、子どもが見つけた言葉を教師が焦点化し、その言葉の意味を動作化したり、話し合ったりすることで、言葉に着目する見方を働かせていました。

<研究授業③ 4年生 算数 井戸教諭>

「小数のかけ算とわり算」

子どもたち自身が話し合う対話的な授業により、「数の仕組み」や「数量の関係性」に着目させることをねらいました。教師の指導や支援は必要最小限として、子ども自身が主体的に話し合いを進める過程を重視しました。既習事項を思考の足場としたり、子ども自身が活用できそうな見方・考え方を選択したりすることを通して、教師主導でない学びを実現していました。

研究授業後の協議会では、授業から学んだことを共有し、教職員一人ひとりが、明日からの授業に前向きに挑戦する思いが高まりました。

今年度に得た「見方・考え方」を働かせる視点と手立てを生かし、来年度の研究では、教師の創意工夫を生かし、子どもたちが主体的・対話的で深い学びに到達できる新たな授業の形を模索していきたいと思います。

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

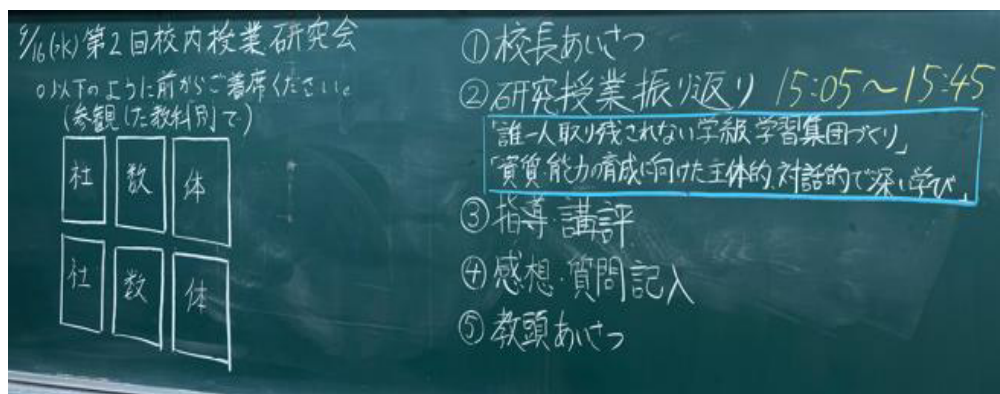


今年度の校内研究授業 その4 (二宮中学校の取り組み)

※今年度もすべての学校で研究授業が行われました。どの学校でも、各校の教育目標そしてにのみや学園の教育目標である「認め合い、高め合う、二宮の子」の実現を目指した授業が展開されていました。今回は二宮中学校の実践を紹介いたします。

6月に2年生、9月に3年生、11月に1年生の全クラスで研究授業を行いました。「主体的、対話的で深い学び」と「一人も取り残されない」をテーマに相互指名や全員挙手を取り入れた取り組みを行っています。

にのみや学園全体で取り組んできた研究をさらに深めるため、引き続き二宮中学校では二宮町教育力向上アドバイザーとして吉新一之先生(元川崎市立川崎小学校長)に関わっていただき、研究授業前の検討段階から授業後の協議に至るまで、指導助言をいただいています。



協議の間では、話し合いの工夫や、概念の形成に至るプロセスなど、深い学びとなるような研究協議を行いました。研究会を通して、よりよい学びの場を提供できるよう、教職員一同研鑽を積んでいます。



第2回校内授業研究会(9月)の取り組み

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



にのみや学園通信

第 37号

今年度の校内研究授業 その5 (二宮西中学校の取り組み)

※今年度もすべての学校で研究授業が行われました。どの学校でも、各校の教育目標そしてにのみや学園の教育目標である「認め合い、高め合う、二宮の子」の実現を目指した授業が展開されていました。今回は二宮西中学校の実践を紹介いたします。

【二宮西中学校】

1. 今年度の研究テーマ

「よりよい生き方を実践する力を育む道德教育」(神奈川県教育委員会委託事業)

2. 主な取り組み内容

4月・5月には、道德授業の作り方に関する研究会を行いました。その中では、道德の授業の中での主体的・対話的で深い学びとは何か、柔軟な道德授業にするための方向性の確認、実際に教材を読んで発問を作って吟味するグループ活動などを行い、教材をどのように読むのかという実践をすることができました。また、昨年度に引き続き研究推進小委員会を発足し、校内研究の推進を図りました。



6月からは、教員が一人1回道徳の授業を行い、授業後に参観したメンバーで振り返る公開授業を行いました。

さらに、9月には、3年3組で長岡教諭による研究授業を行いました。生徒がファシリテーターとなり、意見を繋いでいき、それぞれの考えを比較していく姿が見られました。また、その後は東京学芸大学永田繁雄教授に指導講評をいただき、子どもに対する教師の「伴走者」としての役割について学び、改めて納得解を追究する授業のイメージについて考えることができました。

11月には、1年2組で池戸教諭による研究授業を行いました。二宮町教育力向上アドバイザーの吉新先生にご講演をいただいた授業研究会の中では、教師がどこまで生徒の意見に反応をするのか、机間指導の際の教師の立ち位置とは、など、実際に授業を見て沸き上がった疑問を、参加者で話し合うことができました。生徒たちは、様々な意見がでることに楽しさを感じている姿があり、小学校から話し合いの授業を継続して行ってきた成果を垣間見ることができました。

3. 課題と今後の展望

今年度初めて、道德を研究の中心におき進めていった結果、見えてきた成果と課題は以下の通りです。成果としては、次の2点があげられます。

- ① 教員全員が教科をこえて同じ土俵で考えることができた。
- ② 道德の授業で取り組んでみたことを、自身の教科指導に生かすことができた。

また、課題としては、

- ① 公開授業のしきみが煩雑であった。
- ② 研究授業の講演時間が短かった。
- ③ 学校全体で授業作りに関れるようなしきみがあるとよい。

の3点が挙げられます。

以上を踏まえると、今後の展望としては、来年度も道德を中心として研究を進めていくこと、また学校全体や学年というグループで授業を作っていく機会を設けていながら、様々な年代の教員の考えの交流を行い、道德授業についてアップデートしていくことを考え、より良い実践を目指していきたいと思っています。



感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



にのみや学園通信

R8.3.25
第38号

にのみや学園の小学1年生が吾妻山に集合!・・・ほかの学校のおともだちとなかよくなろう!

3月12日(木)に二宮町内の3小学校の1年生が吾妻山に集合して交流会を実施しました。一色小学校と山西小学校の児童は自分の学校からマイクロバスで二宮小学校の近くまで移動し、学校ごとに吾妻山まで登りました。その後、二宮小学校の児童も同じく吾妻山まで担任の先生方が先導しクラスごとに吾妻山の山頂を目指して登りました。



3校全員がそろった後、各校の代表によるあいさつが行われました。どの学校の児童も仲間のあいさつをしっかりと聴いて大きな拍手を送っていました。その後、代表の先生から『ほかの学校のおともだちとなかよくなろう!』という交流会の目標が伝えられました。さらに代表の先生から「どうしたらなかよくなれるかな?」という問いが児童たちに投げかけられました。児童たちは「順番を守る」、「ルールを守る」等の意見を堂々と発表していました。



そして最後に『いやなきもち 0人』を目指しましょう。というメッセージが代表の先生から伝えられました。

入学してから約1年が経過し、それぞれの学校で成長を重ねてきたにのみや学園の小学校1年生の子どもたち。幼稚園や保育園の卒園以来の再会となる子どももいて全体会終了後に他校の子どもたちにさっそく「一緒に遊ぼう!」と声を掛け合い交流していました。子どもたちは遊具で遊んだり、双眼鏡で景色を楽しんだり。手をつなぎ走り回ったり、ゴロゴロと転がったり・・・思い思いに仲間と楽しいひと時を過ぎしていました。好天にも恵まれ、笑顔あふれる交流会となりました。



にのみや学園では、来年度も引き続き、子どもたちや先生同士の交流の機会を大切にして、にのみや学園の9年間を見据えた小中一貫教育の教育目標である「認め合い、高め合う、二宮の子」の実現を目指していきます。

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



にのみや学園通信

R8.4.24

第39号

一緒に、最高の「にのみや学園」をつくっていきましょう！

にのみや学園が開校して、4年目を迎えました。4月7日（火）の9時10分から、にのみや学園の今年度最初の行事として、学園全体でオンライン始業式を行いました。始業式は、町内の全小中学校の児童生徒と教職員の約1800名が参加しました。にのみや学園を代表して、北川慶太学園長（二宮中学校長）と二宮中学校生徒会長の石井翠（あきら）さんから挨拶がありました。

北川慶太にのみや学園長（二宮中学校長） みなさんが通う小学校と中学校は、「にのみや学園」という、みんなで一つの大きなチームです。「にのみや学園」では、みなさんが小学校から中学校を卒業するまでの9年間、ずっと安心して楽しく学び続けられるように工夫をしています。5つの小学校と中学校の先生たちがしっかりと手を取り合い、「学び方」や「大切にしている目標」を一つにつなげて、みなさんの成長を見守っています。ここで、みんなに大切にしてほしい目標を改めて伝えます。それは、「認め合い、高め合う、二宮の子」という言葉です。さあ、希望いっぱいの新しい1年のスタートです。失敗しても大丈夫。まずはやってみる気持ちを大切に、お友達と一緒に笑顔で進んでいきましょう。一緒に、最高の「にのみや学園」をつくっていきましょう！



石井翠さん（二宮中学校生徒会長） 「小中一貫教育になってから、小中学校で関わる機会が増えてきたと実感しています。その中でも、「小中交流会」は、とても大切な取り組みの一つです。小中学生がいっしょに活動することで、お互いのことを知るきっかけになります。小学生のみなさんは、授業見学や部活動体験を通して、中学校の雰囲気がイメージできるようになったのではないのでしょうか。少しでも「楽しそうだな」と思ってもらえていたら、うれしいです。また、このような交流は、ただ楽しいだけでなく、お互いの成長につながる大切なものです。学年や学校の違いを越えて関わることで、新しい発見や学びが生まれていきます。これからのにのみや学園は、より小中がつながり合い、助け合える学校になっていきます。小学校から中学校へ進むときの不安が少しでもやわらぎ、誰もが安心して楽しく学校生活を送れる場所になることを私は期待しています。そのためにも、一人ひとりが、まわりの人を思いやり、他学年とも進んで関わろうとする気持ちを大切にしましょう。



今後も様々なつながりを大切にすることで、子どもたちが安心して学べる環境づくりに努め、にのみや学園の教育目標である「認め合い、高め合う、二宮の子」の実現を目指していきます。

感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>



第1回 二宮町幼稚園・保育園・こども園・小学校交流会開催される ～「先生たちも仲良しなんだよ」～

5月13日(水)、二宮町民センターにおいて、二宮町幼稚園・保育園・こども園・小学校交流会が開催されました。今回は昨年度に年長児を担当した幼稚園・保育園・こども園の先生方と今年度に小学校1年生を担当している先生方の21名が参加しました。

この交流会は、小学校入学前後における子どもの不安や戸惑いといった心理的負担を少なくすることとともに、子どもの発達や学びの連続性を確保し、幼児教育から小学校教育への円滑な接続がなされるよう幼稚園・保育園・こども園と小学校の連携を図ることを目的として実施されています。

「令和7年度に話し合ったアイデアを、今年はどう動かすか」をテーマに、グループごとの話し合いを行いました。幼保こ小の連携を一步前に進めるために、「自分たちの園・学校で、今年できること・やれることは何か」を具体的に考える時間です。

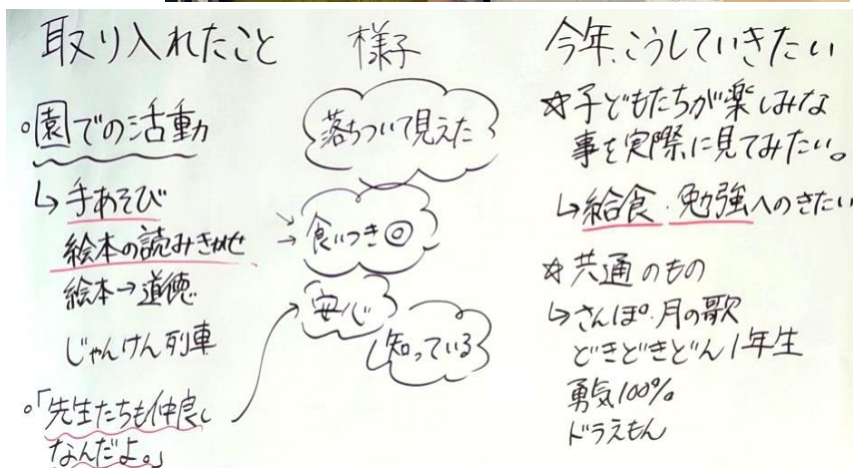
各グループからは、さまざまなアイデアが出されました。中でも多くのグループに共通していたのは、「園での活動を小学校に取り入れる」という視点です。幼稚園・保育園・こども園でなじみ深い手遊びや絵本の読み聞かせ、道徳の教材としての絵本活用、じゃんけん列車など、子どもたちが慣れ親しんだ活動を小学校でも取り入れてみると、子どもの反応もよくなる、安心感につながるだろうという意見が出ていました。

また、参観や授業を通じて幼保こ小の先生たちが互いに行き来し、「先生たちも仲良しなんだよ」ということを、子どもが感じられるようになることの大切さも共有されました。先生同士のつながりが見えることで、子どもたちの心に安心感が生まれ、新しい環境への一步を後押しすることにつながるでしょう。

話し合いを終えた先生方の表情は、どこか晴れやかに見えました。「小さなことでいい、まず動かしてみよう」という前向きな空気が、会場全体に広がっていたように思います。

すべての子どもたちが入学期より安心して、のびのびと学んでいくためには、幼稚園・保育園・こども園と小学校の連携をより一層強化して、子どもたちを多面的にとらえていく必要があります。一方、学習面におきましても、子どもたちが主体的に学んでいくためには、幼稚園・保育園・こども園で培ってきた資質能力を踏まえた授業づくりを小学校でも引き続き推進していく必要があります。

二宮町教育委員会は、幼稚園・保育園・こども園・小学校の「架け橋期」を大切にし、新入学した子どもたちが安心して学校生活に移行できるよう、より良い組織的な連携のあり方をしっかりと考えてまいりたいと思っております。・・・すべては、二宮の子どもたちのために・・・



感想等はこちらのフォームをお願いします。

にのみや学園通信 HP

<https://www.town.ninomiya.kanagawa.jp/0000000929.html>

